

第9回日韓沿岸技術研究 ワークショップ



一般財団法人 沿岸技術研究センター
研究主幹 松永 康司

はじめに

日本および韓国の4団体（韓国海洋科学技術院（KIOST）、港湾空港技術研究所（PARI）、一般財団法人沿岸技術研究センター（CDIT）、および一般財団法人みなと総合研究財団（WAVE））は、沿岸技術についての研究発表および意見交換を行うため、2013年より「日韓沿岸技術研究ワークショップ」を年1回開催しています。

今年の第9回日韓沿岸技術研究ワークショップ（The 9th KIOST-PARI-CDIT-WAVE Joint Workshop）は、4年ぶりの対面形式にて韓国・釜山市で開催され、日本からは、PARI河合所長、CDIT宮崎理事長、WAVE津田理事長のほか、総勢17名が参加しました。

ワークショップ

9月22日（金）午前10時より、韓国・釜山市のKIOST本部においてワークショップ（The 9th KIOST-PARI-CDIT-WAVE Joint Workshop）が開催されました。冒頭、KIOSTのKang, Do-Hyong（カン・ドヒョン）院長から、「沿岸技術の課題について積極的な意見交換を期待したい」と開会の挨拶があり、来賓として来場した韓国海洋水産部のNam, Jae-Hyun（ナム・ジェヒョン）港湾局長からは「我々の安全な生活を支え、国や地域経済に重要な役割を果たす沿岸技術について共有していくことを願っている」と挨拶がありました。

基調講演として、KIOSTのJang, In-Sung（チャン・インスン）海洋産業部長より「港湾及び海洋構造物の建設のための水中ロボットの開発」、また特別講演として、PARIの平山克也波浪研究グループ長から「高潮・高波による岸壁越波浸水過程の解明とその対策」の講演がありました。

また、4つのテーマ（管理、環境、防災、新技術）に沿ってセッションが開催され、各機関における研究内容についての発表が行われました。日本側からは、各機関よりのべ9つの研究発表が行われ、それぞれの発表に対して日韓双方から活発な質疑応

答が行われました。

最後に、WAVEの津田修一理事長から、「参加者による活発な意見交換が行われ有意義だった。来年、日本でKIOSTの皆様と再会するのを心より楽しみにしている」と閉会の挨拶を行い、ワークショップを締めくくりました。



ワークショップの様相

釜山港湾公社訪問

ワークショップの翌日（9月23日）午前9時30分より、日本からの参加者が釜山港の港湾管理者であるBPA（釜山港湾公社）の本社を訪問しました。BPAのJIN Gyoo-ho（ジン・ギョホ）副社長からは、釜山港の概要、将来のコンテナターミナルの整備計画や港湾再開発計画の概要などの説明があり、あわせて質疑応答が行われました。また、在釜山日本国総領事館の高嶋紀子副領事も同席しました。



BPA訪問（写真左側より、KIOST安顧問、WAVE津田理事長、PARI河合所長、CDIT宮崎理事長、CDIT橋本参与、BPA JIN副社長、在釜山日本領事館高嶋副領事）

おわりに

開催にあたり、PARI、CDIT、WAVEおよびKIOSTの担当者がweb会議で複数回打合せを行いました。また、CDITからの発表者も何度か発表練習を行い当日に備えました。関係者の準備により、4年ぶりの対面のワークショップでは熱心な議論を行い、充実した日程を過ごすことができました。

また、KIOSTにおいては同じ時期に創立50周年の記念行事が開催されていましたが、多忙なかご参加頂いた安顧問をはじめ、参加頂いた関係機関のみなさまには大変お世話になりました。改めて感謝の意を示します。